

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 10-085251
(43)Date of publication of application : 07.04.1998

(51)Int.CI. A61F 11/14

(21)Application number : 08-263578
(22)Date of filing : 12.09.1996

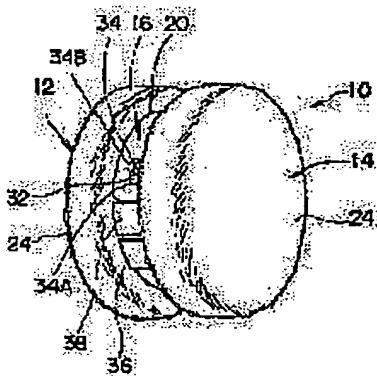
(71)Applicant : KOBAYASHI SHIGENOBU
(72)Inventor : KOBAYASHI SHIGENOBU

(54) EAR COVER

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an ear cover that can be made compact when not in use, as when carried around or stored.

SOLUTION: An ear cover 10 is provided with first and second ear cover bodies 12, 14 opposed to each other. The first and second ear cover bodies 12, 14 are connected together by an inverted-U-shaped connector 16 made from a synthetic resin. A bracket is placed upright at the ear abutting parts of the first and second ear cover bodies 12, 14, and a locking piece is pivotally supported against the bracket in such a way as to be rotatable toward the front with respect to the ear abutting parts that extend in a first direction. An enlarged-head pin 32 is placed upright outside the end of the locking piece and is inserted into a pin hole 34 formed through the first connecting piece 20 and second connecting pieces of the connector 16, and the first connecting piece 20 and second connecting pieces are pivotally supported in such a way as to be rotatable in a second direction crossing the first direction.



BEST AVAILABLE COPY

LEGAL STATUS

[Date of request for examination] 12.09.1996

[Date of sending the examiner's decision of rejection] 23.03.1999

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平10-85251

(43)公開日 平成10年(1998)4月7日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

F I

A 61 F 11/14

A 41 D 21/00

Z

審査請求 有 請求項の数1 FD (全4頁)

(21)出願番号 特願平8-263578

(71)出願人 596144377

小林 繁信

埼玉県川口市柳崎1-26-8

(22)出願日 平成8年(1996)9月12日

(72)発明者 小林 繁信

埼玉県川口市柳崎1-26-8

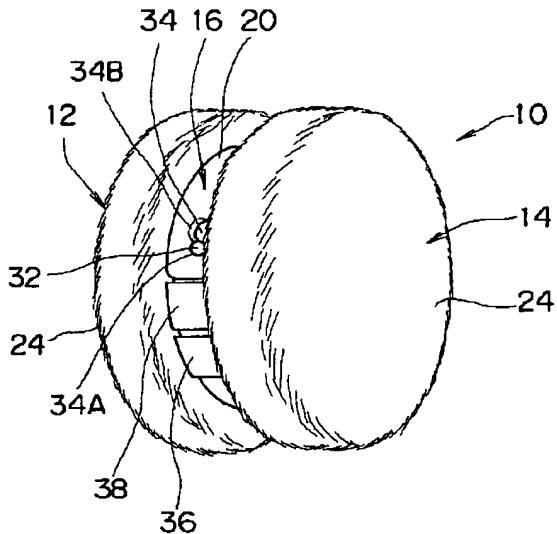
(74)代理人 弁理士 若林 拡

(54)【発明の名称】耳覆

(57)【要約】

【課題】本発明は、携帯時や収納時等の非使用時にコンパクトにできる耳覆を提供するものである。

【解決手段】耳覆10には第1耳覆体12と第2耳覆体14が対向して設けられている。これら第1耳覆体12と第2耳覆体14は合成樹脂材で形成された逆U字形状の連結体16によって連結されている。第1耳覆体12と第2耳覆体14の耳当接部26にはブラケット28が立設され、ブラケット28には係止片30が第1の方向である耳当接部26に対して正面方向に回動可能に枢支されている。また、係止片30の先端部の外側には拡頭ピン32が立設され、拡頭ピン32は前記連結体16の第1連結片20及び第2連結片22に貫通形成されたピン挿入孔34に挿入され、第1連結片20及び第2連結片22は第1の方向と交差方向である第2の方向に回動可能に枢支されている。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 一方の耳を覆う第1耳覆体と、他方の耳を覆う第2耳覆体と、前記第1耳覆体と第2耳覆体を連結する可撓性材料から形成された連結体と、前記第1耳覆体及び第2耳覆体の内側面に第1の方向に回動可能に取り付けられた係止片と、前記第1耳覆体の係止片の先端部に前記第1の方向と交差する方向である第2の方向に回動可能に係止された前記連結体の一端部と、前記第2耳覆体の係止片の先端部に前記第1の方向と交差する方向である第2の方向に回動可能に係止された前記連結体の他端部と、を有してなることを特徴とする耳覆。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】 本発明は、主に寒い時期に外出したり、あるいはスキー、スケートをする場合等に使用する耳覆に関する。

【0002】

【従来の技術】 寒い時期に外出したり、あるいはスキー、スケート等をする場合等に耳が冷えるのを防止するために耳覆を使用する場合がある。しかし、従来の耳覆は一方の耳を覆う第1耳覆体と他方の耳を覆う第2耳覆体を連結する略逆U字形状の連結体は非可撓性材料で形成されると共に連結体の一端部は第1耳覆体に固定され、他端部は第2耳覆体に固定されているため、耳覆を使用しない場合に前記連結体が嵩張って邪魔になり耳覆をコンパクトにすることができないという不具合がある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】 本発明は、上記不具合を解消すべく発明されたものであり、携帯時や収納時等の非使用時にコンパクトにできる耳覆を提供するものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】 請求項1記載の発明は、一方の耳を覆う第1耳覆体と、他方の耳を覆う第2耳覆体と、前記第1耳覆体と第2耳覆体を連結する可撓性材料から形成された連結体と、前記第1耳覆体及び第2耳覆体の内側面に第1の方向に回動可能に取り付けられた係止片と、前記第1耳覆体の係止片の先端部に前記第1の方向と交差する方向である第2の方向に回動可能に係止された前記連結体の一端部と、前記第2耳覆体の係止片の先端部に前記第1の方向と交差する方向である第2の方向に回動可能に係止された前記連結体の他端部と、を有してなることを特徴としている。

【0005】

【発明の実施の形態】 図1乃至図6には本発明に係る耳覆の一実施例が示されている。図3に示すように、本発明の耳覆10には一方の耳を覆う第1耳覆体12と他方の耳を覆う第2耳覆体14が対向して設けられている。これら第1耳覆体12と第2耳覆体14は逆U字形状の

連結体16によって連結されている。この連結体16は前記第1耳覆体12に取り付けられた第1連結片20と第2耳覆体14に取り付けられた第2連結片22とから構成されている。これら第1連結片20と第2連結片22は可撓性のある合成樹脂材で形成されている。前記第1耳覆体12と第2耳覆体14は略円盤形状に形成されており、第1耳覆体12と第2耳覆体14の外側には毛皮24、24が貼付され、防寒機能を果たすようになっている。また、第1耳覆体12と第2耳覆体14の内側には耳に直接当接する耳当接部26、26(図3には第1耳覆体12の耳当接部26のみを示す)が形成されている。図4乃至図6には、前記第1耳覆体12の一部が拡大状態で示されている。図5及び図6に示すように、前記耳当接部26にはブラケット28が立設されている。このブラケット28には矩形状の係止片30が第1の方向である耳当接部26に対して正面方向(図5及び図6矢印A方向)に回動可能に枢支されている。図5及び図6に示すように、前記係止片30の先端部の外側には頭部が拡径した拡頭ピン32が立設されている。図1及び図2に示すように、前記拡頭ピン32は前記第1連結片20の基端部20Aに貫通形成されたピン挿入孔34に挿入され、前記第1連結片20は前記第1の方向と交差方向である第2の方向(図4矢印B方向)に回動可能に枢支されている。前記ピン挿入孔34は前記拡頭ピン32の頭部より小径の小径部34Aと拡頭ピン32の頭部より大径の大径部34Bを連続させて形成されている。従って、前記拡頭ピン32はピン挿入孔34の小径部34Aに挿入されると不用意に拡頭ピン32がピン挿入孔34から抜けないようになっている。なお、前記拡頭ピン32をピン挿入孔34の小径部34Aから大径部34Bに移動させると、前記拡頭ピン32はピン挿入孔34から抜けるので、連結体16と第1耳覆体12と第2耳覆体14とを分離することができるようになっている。なお、第1耳覆体12の構成と第2耳覆体14の構成は同一であるので重複を避けるため、第2耳覆体14の構成の説明は省略する。図3に示すように、前記第1連結片20の先端部には第1枠体36が形成され、第2連結片22の先端部には第2枠体38が形成されている。第1枠体36には第2連結片22の中間部が挿入され、第2枠体38には第1連結片20の中間部が挿入され、連結体16全体の長さを調節できるようになっている。

【0006】 次に、実施例の作用について説明する。耳覆10を使用する場合は一方の耳に第1耳覆体12を対応させ、他方の耳に第2耳覆体14を対応させると共に連結体16を頭部に対応させて耳覆10を着用する。前記連結体16を長くしたい場合は第1連結片20と第2連結片22を共に離間方向に引っ張ることにより連結体16を長くできる。また、前記連結体16を短くしたい場合は第1連結片20と第2連結片22を共に接近方向

に押すことにより連結体16を短くできる。従って、頭部のサイズに合わせて連結体16の長さを自由に調節することができる。耳覆10を携帯する場合や収納する場合は図1及び図2に示すように連結体16の第1連結片20と第2連結片22を円弧状に曲げると共に係止片30を耳当接部26に対して垂直になるようにブラケット28を中心として第1の方向に回動させ、第1連結片20と第2連結片22を拡頭ピン32を中心として第2の方向に回動させる。これにより、第1連結片20と第2連結片22は図2に示すように円弧状態になって重なり合い第1耳覆体12と第2耳覆体14とを当接することにより、図1に示すように耳覆10をコンパクトにすることができる。従って、耳覆体10の連結体16は図1及び図2に示す状態になるので、連結体16が嵩張って邪魔になることがないので、耳覆10をコンパクトにすることができる。

【0007】なお、実施例では連結体16を第1連結片20と第2連結片22とから構成し、連結体16の長さ調節を自由に行えるようにしたが、これに限定されるものではなく長さ調節を行うことはできないが連結体16を1本の可撓性材料で形成してもよいことは勿論である。また、実施例では連結体16の第1連結片20と第2連結片22を合成樹脂材で形成したが、これに限定されるものではなく可撓性材料であれば金属等他の材料で形成してもよいことは勿論である。

【0008】

【発明の効果】以上説明したように本発明の耳覆は、連結体を折り曲げると共に連結体の一端部及び他端部を回動することにより耳覆をコンパクトにでき、携帯する場合や収納する場合に嵩張らないという優れた効果を有する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る耳覆をコンパクトにした状態の斜視図である。

【図2】本発明に係る耳覆をコンパクトにした状態の連結体の斜視図である。

【図3】本発明に係る耳覆の使用状態を示す斜視図である。

【図4】本発明に係る耳覆の第1耳覆体の一部拡大図である。

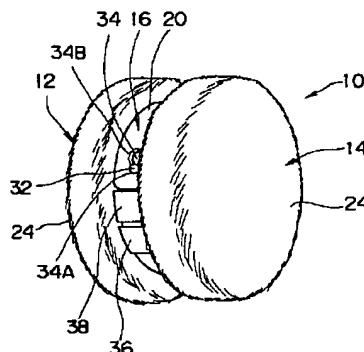
【図5】本発明に係る耳覆の第1耳覆体の一部拡大図である。

【図6】本発明に係る耳覆の第1耳覆体の一部拡大図である。

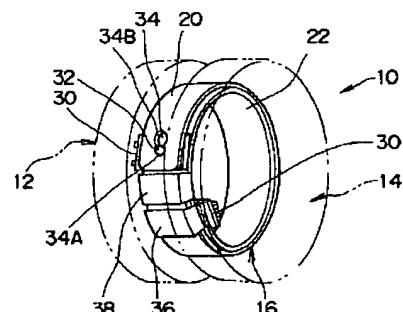
【符号の説明】

- | | |
|----|--------|
| 10 | …耳覆 |
| 12 | …第1耳覆体 |
| 14 | …第2耳覆体 |
| 16 | …連結体 |
| 20 | …第1連結片 |
| 22 | …第2連結片 |
| 30 | …係止片 |

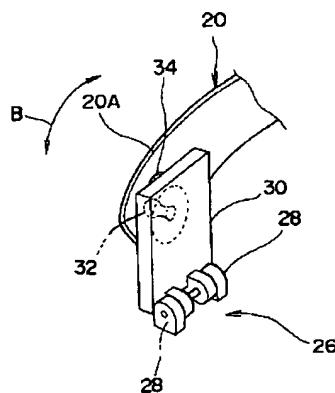
【図1】



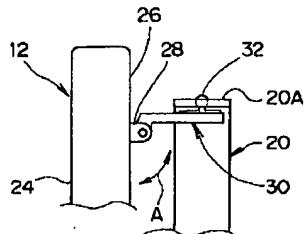
【図2】



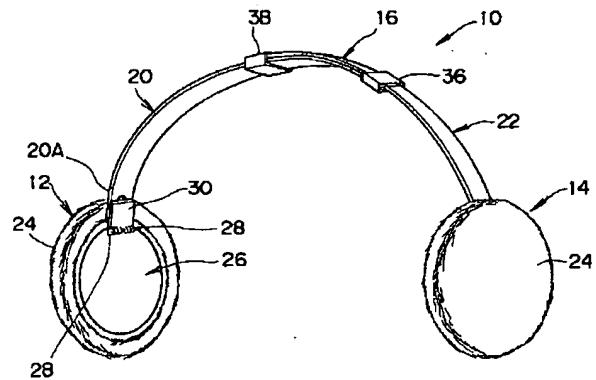
【図4】



【図6】



【図3】



【図5】

